

生徒がともに平和について考え、議論する道徳授業

— STEAM 教育を取り入れた道徳と総合的な学習の時間とを結び付けた新たな平和学習の提案 —

たなか まりこ
田中 真理子（中学）

はじめに

75期生（中学3年生）では、昨年9月に京都府舞鶴市・福井県敦賀市を訪れ、引揚やユダヤ難民、ポーランド孤児について学ぶ平和学習を行った。本学習では広島・長崎・沖縄の三県の戦争の悲劇についての学びから一步離れ、生徒たちが平和を身近に感じられ、自身の生活に直接的に還元できる学びを目指した。舞鶴引揚記念館での引揚やシベリア抑留についての学び、敦賀ムゼウムでのポーランド孤児や命のビザを携えたユダヤ難民についての学びを通して、人間の「生命力」「人間愛」「思いやり」「家族愛」など、生徒一人ひとりが日々の生活の中で向き合う問いを、改めて考えることができるよう学習方法を工夫した。本平和学習の成果として、約8割の生徒が平和に対する考え方が深まったと回答したことが挙げられる。具体的に述べると、多くの生徒たちが辛い中でも楽しみを見つけ、前向きに生きることの大切さや日常の中で小さな幸福を見つける大切さなど、今後よりよく生きるためのヒントを得たり、新たな視点から平和を捉えたりするきっかけとなった。本授業実践は、昨年度の平和学習から約一年半が経過し、様々な知識や体験を積み重ねてきた生徒たちが、平和についての学びをさらに深めることを目指した取り組みである。平和についての学びを深めるねらいをもとに、教材・指導法を工夫し、Society 5.0時代を生きる生徒たちが、平和についてクラスメイトとともに考え、議論する中で、自らの平和を掴むために努力を惜しまず、知恵を出し合いながら対話を重ねる必要があることに気づかせる授業を目指した。

I. 道徳授業の記録

1. 指導案作成段階での取り組み

本授業は昨年度の平和学習を道徳教育へと繋げる学びであるので、導入において昨年度の学びの成果物（Tenstagramと小論文）を共有し、昨年度の学びを振り返ることとした。またSTEAM教育を取り入れた新たな道徳授業のあり方を模索するために、環境

問題を扱う補助教材を用い、文理融合の実践を試みることで、生徒たちが考え議論する授業デザインを目指した。平和についての考えを深める教材、また環境問題について探究することができる言語活動を行うにあたって、読み物教材としては、絵本『世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ』（2014）を用いることとした。本教材を用いることで、2012年にブラジル・リオデジャネイロで開催されたリオ会議（地球サミット）において、南米ウルグアイのムヒカ大統領が述べたスピーチから、生徒たちが平和や幸せ、豊かさや貧乏、また開発のあり方などについて考える中で、

- ①多面的・多角的な視点から平和や幸せについて捉え、考えを深めること
- ②平和について自分たちで掘み取っていく必要があること

に気づき、近い将来には、自分が考える平和や幸せを掴み取るために行動を起こす人に成長してほしいという願いを込めた。

次に、学習指導案作成段階における工夫について述べたい。指導案作成段階における昨年度の生徒作品を用いた平和学習の振り返りを行う導入場面では、本授業で平和について考える生徒たちが平和を身近に感じられるとともに、学習の動機づけとなるように意識した。また展開場面では、生徒がともに平和について考え、議論できるように探究活動を設定した。その際、理科の知識はもちろん、地理的な知識も必要となる探究テーマについての話し合い活動であったので、生徒への発問が明確で、考えやすい具体的な問いを投げかけることを心がけた。そして終末では、授業者の講話などは行わず、オープンエンドで終わることで、生徒たちの平和についての学びの思考を授業後も深められるように意識した。授業後には、生徒の授業の感想を学級通信を用いて共有することで、家庭でも平和について考えを深められるように工夫した（本授業の詳細は研究集録105頁参照）。以下に指導略案を示す。

指導過程	学習活動と主な発問	備考
導入	・ 2年生の平和学習での学びを振り返る。	※昨年度の平和学習のまとめ課題 Tenstagramと課題作文を用いる。
展開	・ 教材の確認	※教材は授業前日の終礼で範読。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>発問1 着飾ることもできるムヒカ大統領。なぜ貧しい格好で会議に出席したのだろうか。</p> <p>発問2 ムヒカ大統領のスピーチに詰まっているものは何だろうか。</p> <p>発問3 ムヒカ大統領は、「人類に必要なものは、『命を愛するための投資』である」と述べています。そしてムヒカ大統領は、以下の5つを例として挙げています。そのうちの一つを実現するために（与えられたテーマ）、今、世界に必要なことは何ですか。また、なぜそう考えますか。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><ムヒカ大統領の考え> 人類に必要なものは、「命を愛するための投資」である。だからこそ、 （Ⅰ）サハラ砂漠の真ん中に大量の塩水が必要で、気候変動の対策として、塩水を蒸発させる。 （Ⅱ）シベリア北部の氷で、アジアの乾燥地帯に飲み水を引く。 （Ⅲ）アラスカの氷でロッキーのふもとに川を作り、メキシコ北部まで流す。 （Ⅳ）パタゴニアを人が住めるようにする。 （Ⅴ）アタカマ砂漠に木を植えて、世界一乾いた砂漠の気候を変える。</p> </div>	<p>追究発問① ムヒカ大統領は、何を大切と考えているのだろうか。</p> <p>追究発問② ムヒカ大統領は、どのように他の大統領と違っているのだろうか。</p> <p>☆国際的な視点に立ち、「世界は一つである」ということを前提に思考させるように導く。</p>
終末	・ 生徒の発表	※ジグゾー活動で話し合った内容の報告を行う。

2. 授業実践について

授業では、導入において昨年度の平和学習を振り返り、平和について探究する動機づけを行った。その後、学習指導案における発問1、2を行い、教材の理解を確認した。教材内容の理解を行う際には、「補助発問」を多用することで、生徒たちのより深い理解へと導くことを心掛けた。図1は、生徒に補助発問を行っている様子を示したものである。また各発問を個人で考えた後は、限られた時間でも、ペアやグループで意見交流する時間を設定することを意識した。クラスメイトと意見や考えを共有することを大切に実践を進めることによって、生徒がともに平和について考え、議論する道徳授業への足場掛けとした。



図1 教材内容について考える生徒の様子

教材の理解を行った後は、本授業実践の中心となる活動であるSTEAM教育を取り入れた「ジグゾー活

動」を行った。活動では、図2に示したように、生徒たちが活発に自分の意見や考えを共有する姿が見受けられた。また各班において、司会・進行を担当した生徒を中心に目的意識を持って活動に取り組むことが出来ていた。例えば、「ムヒカ大統領のスピーチを無駄にしたいくない」という想いで活動に取り組む生徒もいれば、自分の意見を言うことを意識した生徒、逆にクラスメイトの意見を聞くことを大切にしたい生徒もいた。ジグゾー活動を通して、平和について考えを深められた生徒は、情報が十分に世界に行き届いていない、あるいは自分が知らない事実が多くある現実を目に向け、どのようにしたら世界中の人々に知ってもらえるのかを考えながら活動した生徒もいた。

ジグゾー活動後には、図3に示したように話し合い活動から導き出したことを学級全体で交流する時間を設定した。各班とも探究テーマは異なっていたが、環境問題の解決には、「知識」「思考」「思いやり」「協力」が大切であるという点で共通していることを導き出すことができた。

本授業の成果として、生徒の授業後の感想から、多面的・多角的な視点から平和や幸せについて考えられていることが分かった。そしてまた、授業後の成果物であるTenstagramからは、平和をグローバルな視点から捉えたり、ジグゾー活動で導き出した平和を実現するための大切な要素である「知識」「思いやり」「協力」「共存」などの用語を用いて、作品を完成させている様子が見え、大きな成果であった。以上のことから、本稿I-1で述べた本授業の目標は一定達成されたと考える。

一方、課題や改善が必要な点も明らかになった。具体的には、

- ①見通しを持った授業計画を行うこと
- ②ジグゾー活動の際に座席移動に戸惑う生徒への支援が十分ではなかったこと

の二つである。はじめの一つ目の「見通しを持った授業設計」についてである。本実践は50分授業であったが、ジグゾー活動の時間を十分に確保するためには、2時間分の授業時間を確保した方が、生徒の学びをより深められたのではないかと考えている。2時間設定にすることにより、ジグゾー活動の際、生徒たちが自分たちで役割決め（司会・進行）や探究テーマ決めを行うことができ、より主体的に考える学習環境が整ったのではないかと考える。また探究テーマに出てくるサハラ砂漠、シベリア、ロッキー山脈、パタゴニア、アタカマ砂漠などについて、クロームブックでGoogle Earthなどを活用し、地理的なことを生徒たちが調べながら活動を進める方がより主体的・対話的な学びになったと感じている。実際、本授業においても、「パタゴニアってどこにあるかすら知らん…」「アタカマ砂漠って



図2 ジグゾー活動を行う生徒の様子



図3 ジグゾー活動について発表する生徒の様子

どこ？」などの声が多く聞かれたり、咄嗟にクロームブックを使って調べ始める生徒たちも多くいた。しかしながら、ジグソー活動は30分程度の活動であったので、このような自分の知らないことを「知りたい」という生徒たちの学びに向かう力を大切にしながら、授業を進めることは難しい状況にあったことが大きな反省である。そしてまた、ジグソー活動による学びの成果を終末で発表する場面では、授業者が指名した四班のみの発表となってしまったが、2時間設定にすることにより全班発表が可能となり、生徒たちにとってより深い学びに繋がるのではないかと考える。

次に、二つ目の「座席移動の際の支援が必要な生徒への対応」についてである。本時に行ったジグソー活動のような複雑な座席移動を伴う活動を行う場合、すべきことを理解できていない生徒やクラスメイトの顔を覚えるのが苦手な生徒が移動先を見つけられずに困っていた場面が見受けられた。その際、周りからの早い段階での声掛けなどが円滑に活動を行うために必要であるので、日頃からの集団づくりに取り組む必要があることを再認識した。以上のことから、見通しを持った授業計画、また上手く移動できない生徒への支援については課題が残る結果となった。

II. 研究協議の記録

研究協議では、指導助言に国際移住機関（IMO）の清谷典子氏をお招きした。清谷氏はこれまで国連の関連機関に所属し、人身取引被害者の支援や定住外国人の就学支援などをめぐる平和活動に携わり、社会（世界）のリアルな現状について知っている実務家である。そのため、平和学習を今後、教育現場で行っていきにあたり、より社会（世界）の現状に即した平和学習を行うための様々な知見を得られた機会となった。また司会は、道徳を長く研究されている兵庫教育大附属中学校教諭の和田雅博先生に担

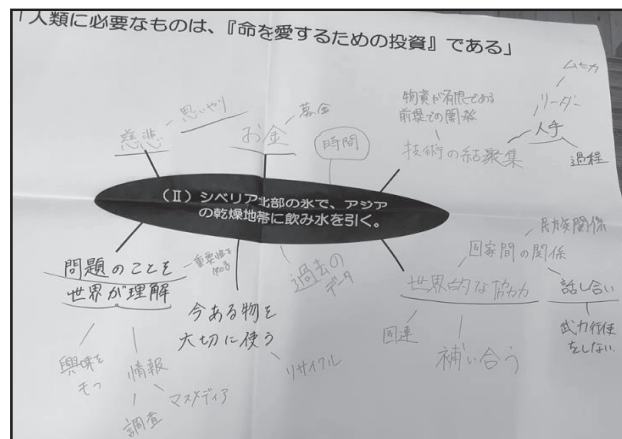
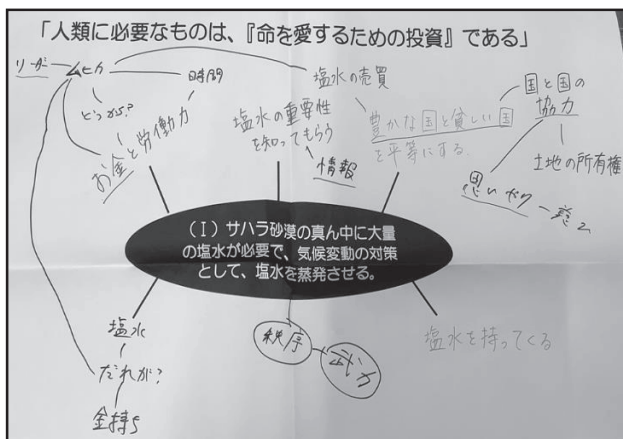
当して頂くことで、平和学習と道徳教育、また道徳教育とSTEAM教育の融合の有効性についてともに検討した上で、新たな学習活動の提案を目指した。研究協議は、

- ①授業者による授業実践の振り返り
 - ②指導助言の清谷氏の講話
 - ③参観者からの質疑応答
- という流れで進めた。以下に、詳細を示す。

1. 授業者の振り返り

（1）授業実践に至るまでの取組みについて

指導案作成段階においては、昨年度の平和学習での学びと本授業とを結びつけながら、生徒が平和についてともに考え、学び合える授業を目指して、主に導入と展開において工夫を行った。導入段階では、昨年度の平和学習の課題であった「私にとっての平和って？」をテーマとした小論文と自分が考える平和を写真におさめたTenstagramを用いて、平和学習を振り返ることが出来るように工夫した。また展開では、ジグソーの手法を用い、平和について生徒がともに考え議論する実践の手立てとした。ジグソー活動では、生徒たちが考えを深めることができるようにマッピングで意見集約を行った。マッピングの作成では、生徒の思考活動がどの場面で行われたのかを見取るために、活動回数に応じてペンの色を変える工夫を行った。具体的に述べると、四回の移動を行った本授業では、1回目の話し合い活動の記録をピンク色、2回目を水色、3回目を黄緑色、4回目を紫色、1回目の班に戻る5回目をオレンジ色で書くように指示した。さらに5回目の移動では、発表準備を行うために、大切なキーワードに赤色で線を引くよう伝えた。このようなペンの色を変えるという工夫によって、生徒たちが回を追うごとに平和について多面的・多角的な視点から捉えている様子が分かった。以下に、生徒のマッピングを示す。



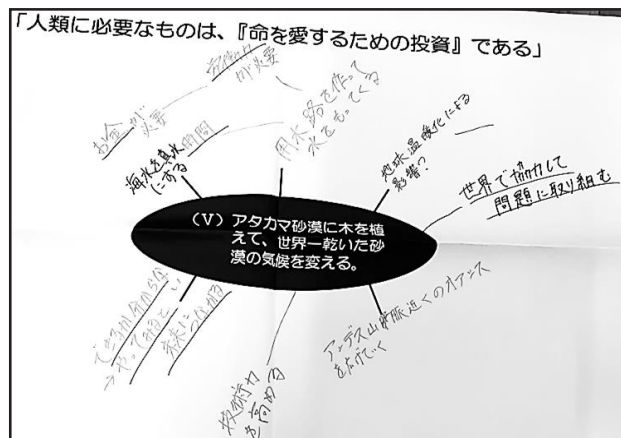
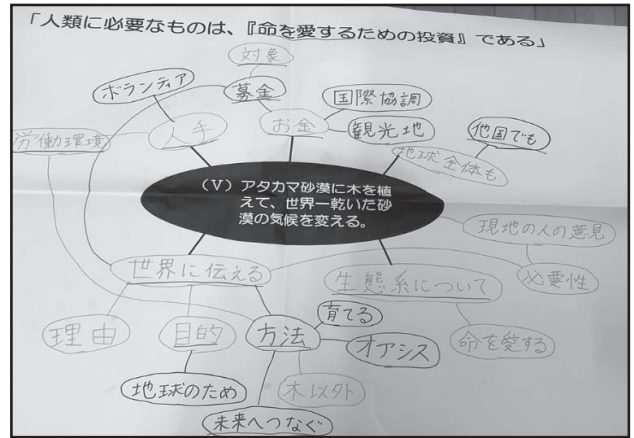
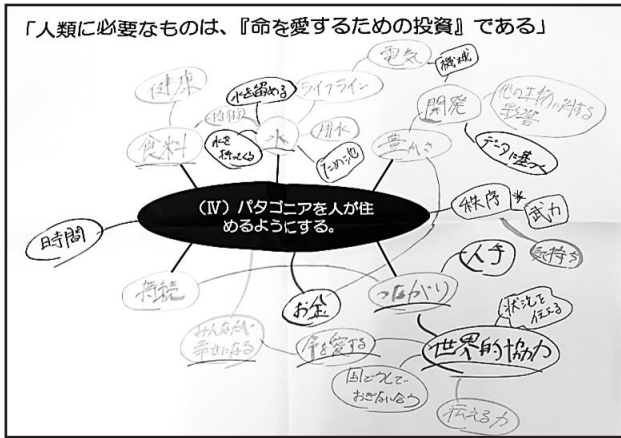
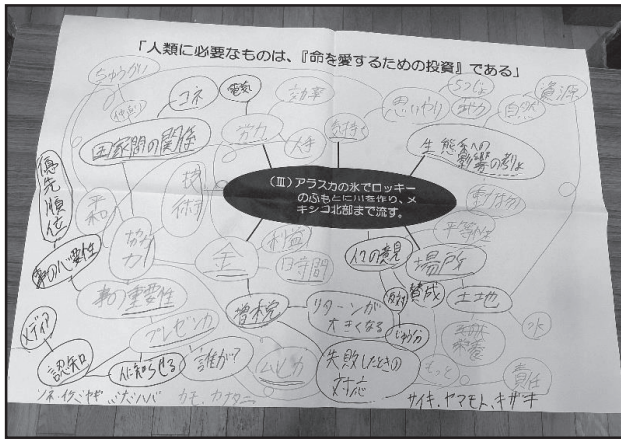
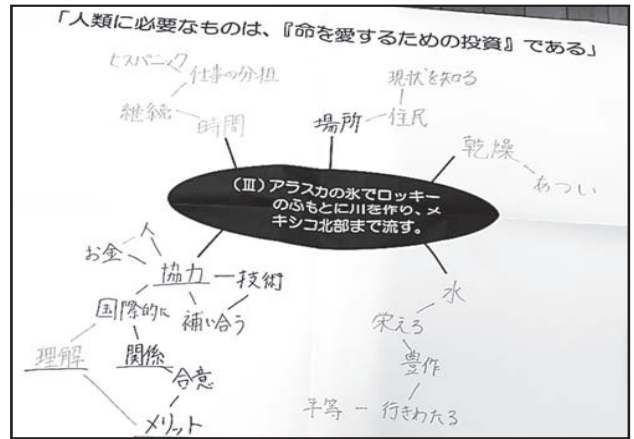
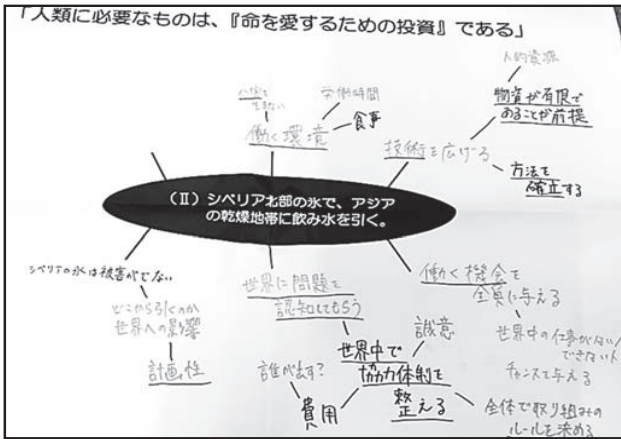


図 4 ジグソー活動で各班が作成したマッピング

（2）授業実践後の改善点について

授業は概ね計画通りに進めることができたが、ジグゾー活動のまとめを発表する時間がもう少し必要であったと感じている。そのため、見通しを持った授業計画を行うことが大切であることを実感した。また生徒たちが目的意識を持って学ぶためには、ジグゾー活動の際の各班での役割決めや探究テーマの自己決定などを行う必要があると考えた。さらに複雑な座席の移動を伴うジグゾー活動においては、移動に戸惑う生徒に対して、クラスメイトからの声掛けもジグゾー活動を円滑に進めるために大切であるので、普段からの集団づくりにも気を配っていききたい。

2. 指導助言について

（1）指導助言者と司会者からの感想について

今、教育現場で行われている道徳授業では、生徒たちが道徳的価値についてともに考え、議論しながら多面的・多角的な視点から価値理解を深めていくことが大切にされている。このような学習形態は本授業実践の研究の柱でもある「生徒がともに平和について考え、議論する道徳授業」とも共通するものであった。本授業実践は、道徳と理科という文理融合のSTEAM教育の実践を試みる点が新たな道徳授業としての提案であった。学習指導案の「発問3」、ムヒカ大統領の考える「命を愛するための投資」についての探究テーマでは、理系の設問が多い一方で、人と人のつながりや愛など、まさに文理融合で探究活動が行われており、どの問いも生徒たちが考える必然性がそこに存在していた。また地理や政治の知識などを生徒たちが積極的に活用している様子も印象的であった。以上のことから、本授業における道徳教育とSTEAM教育の融合とその有効性は、教材開発面においても、指導法においても、生徒たちの授業への主体的・対話的な取組みから実証できた。

本時の道徳は、「ねらい」「教材」「指導法」と、3拍子揃っているものが実践できていた。「指導法」について具体的に述べると、ジグゾー活動では、議論を円滑に行わせるために、グループの中に一人残るファシリテーターを置いたのが良かった。また授業の展開における発問1で、「ムヒカ大統領は、なぜ平服でスピーチしたのか」という問いに対して、ある生徒は「自分が目立つ」と答えた際に、授業者が「なぜ？」と補助発問をすることで、「自分の生活で不自由はないから」と、生徒が自分がこれまで考えてこなかったことを掘り起こすきっかけになった。このような生徒がこれまで考えてこなかったことを掘り出していくことが、道徳授業の成功へと繋

がっていくと考える。最後に「ねらい」「教材」については、昨年度の総合的な学習の時間で行った平和学習をさらに深めようと、自主教材で「平和」をテーマに道徳を実践したことが価値あることである。本授業の生徒の学びの姿勢や成果からも本実践は、「総合的な学習の時間」「道徳」「STEAM」とを絡み合わせた新たな道徳教育の実践の提案と言える。

（2）これからの平和学習について

清谷氏の講話では、所属機関である国際移住機関(IMO)の概要について説明して頂いた後に、これまで携わってこられた移民問題、特に日本の定住外国人と子どもの就学支援についての課題を共有して頂いた。課題の共有とともに、これからの学校教育で求められる平和学習について具体的な教材と発問を提示して頂くことで、今後、教育現場で平和学習を行う際の新たな知見について考えを深めることが出来た。移住映画で学ぶ多文化共生など、多国籍の生徒たちが増えていく中で考えていかなければならない「共生」という視点から、平和学習を捉える貴重な機会となった。

おわりに

本授業実践における目標は、
①昨年度実施した平和学習と道徳とを繋ぎ合わせ、約一年半にわたる平和学習を完結させること
②道徳にSTEAM教育を取り入れること
であった。①②ともに新たな試みではあったが、授業での生徒の様子や授業のワークシート、また授業後の感想から、生徒たちは平和についての見方・考え方をより深める実践となったと考える（資料③参照）。

以上のことから、本実践は新たな平和学習の提案として、また道徳にSTEAM教育を取り入れた先進的な教材開発とその実践になったと考える。今後、教育現場において、道徳を平和学習と結び付けた取組みや、道徳にSTEAM教育を取り入れた授業実践を行って行くためには、その教材開発と教材の有効性の検証が必要である。そのため、本校のような教育研究校が世界の現状と生徒の実態に応じた様々な道徳の教材開発とその実践を積み重ねながら、その成果の情報発信に努めることが大切であると考えられる。

特別の教科 道徳 学習指導案

授業者：3年D組担任 田中 真理子

1. 日時 令和5年11月11日（土） 授業Ⅰ [9時25分～10時15分]
2. 学年・組 第3学年D組（計36名）
3. 場所 2年A組教室（北館3階）
4. 主題名 「私にとっての平和って？」【C-18 国際理解と国際貢献】
5. 教材名 「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」くさばよしみ編集、汐文社、2014
「もし800億ドル持っていたら？ムヒカ大統領の答えは…映画「世界でいちばん貧しい大統領 愛と闘争の男、ホセ・ムヒカ」本編映像、YouTube

6. 主題設定の理由
(1) ねらいとする価値について
Society 1.0の狩猟時代から情報社会である Society 4.0時代の現在に至るまでの時代の流れの中で、私たちの生活は大きな変化を遂げてきた。そして、もうすぐそばに迫り来る Society 5.0時代では、AIやロボット、ドローンなどの高度な科学技術と私たちの生活を融合させながら、より豊かな未来を自らの力で担い取っていくことが求められている。一方、Society 1.0時代からずっと変わらないものは何だろうか。自分が、家族が、所属コミュニティがともに支え合って生きること、そして日々の生活の中で、自分の「平和」を築いていくことは、今までも、そしてこれからも変わることはないであろう。

世界中を自向けよう。世界には、私たちが解決していなければならない戦争や紛争、飢饉や医療問題、性による不平等など、地球規模の諸課題が山積みである。そんな問題に、科学技術を駆使しながら、他者と対話を深め、世界の平和と人類の発展に寄与する子どもたちを育てるために必要なことは何だろうか。それは子どもたち一人ひとりが、世界の真実を追究するために、

(Ⅰ) 社会システムの構造についての知識を得、その理解を深めること
(Ⅱ) 国際的視野に立ち、平和や発展に関して自分事として考えること
(Ⅲ) 自分の平和や発展についての考えを、他者と共有し、多様な見方・考え方を働かせながら、自身の考えを問い続け、深化（新化）させていくこと

という3つの段階的な学びではないかと考えた。自分だけの平和や発展だけを追究し続けるのではなく、社会的・政治的弱者も含む、他の立場から見て、公平・公正な視点から物事を考える力、他者の意見を受容し、柔軟に自分の考えを深めていく力を育むことは、多面的・多角的な視点から世界の平和と人類の発展を促すためには欠かせないものである。

私たちの生活（衣食住）が、諸外国によって支えられていることは周知の事実となるとともに、YouTube や TikTok などを通して、互いの国の伝統や文化、最新の流行などを発信し合いながら、違いを受容し、楽しむ関係性となっている側面が見られる。このようなグローバルな相互関係の中で生きる私たちにとって、自分だけ「平和」であればよい、自国だけ「発展」できればよいという欲求を捨て、世界の平和と人類の発展について、国際的視野に立つて考える必要がある。そのために、平和・発展についての一面の見方から脱却し、世界の現実を知った上で、生徒一人ひとりが多面的・多角的な側面から、平和と発展を捉え、それらを自分たちで担い取っていく姿勢を育みたい。「平和」「発展」という馴染み深い言葉が、普段あまり考えないことを、自分事として捉え、各教科学習を含むこれまでの様々な学びや体験とつなぎ合わせながら思考し、持続可能な世界の平和の実現に向けて行動に移す力を持った生徒、平和な未来を自分の力で担い取り、切り拓く強さを持った生徒を育てたい。

- (2) 生徒の実態について
75期生（現在の中学3年生）は、昨年9月に京都府舞鶴市、福井県敦賀市で、引揚やユダヤ難民について学ぶ平和

学習を行った。本授業では、その後、約1年間、様々な知識や体験を積み重ねてきた生徒たちの平和についての学びを深めることを目指したい。昨年度の学びの成果としては、
(Ⅰ) 知識と体験の相互作用から、主体的・対話的で深い学びを達成することができたこと
(Ⅱ) 「平和とは何か」という問いに対して、自分なりの答えを持つことができたこと
が挙げられる。一方、平和は自分たちで担い取っていくものである、という視点にまで学びを深めることが出来なかった課題がある。そこで本授業では、昨年度の平和学習での学びを振り返ることを導入し、平和学習での学びと本授業の学びを生徒たちがつなぎ合わせ、平和についての学びを深めてくれることを期待する。また、総合的な学習と道徳とを繋ぎ合わせた平和学習のまとめとして、昨年度の成果物であった Tenstagram を再度、作成させる（資料①②参照）。昨年度の課題設定は、非日常（舞鶴・敦賀）で考えた平和を写真に撮り、その写真に詰まった想いを教文でキャッチーに書くこととしたが、本授業の設定は、日常の中で考える平和とし、昨年度のものと学びの成果を体得させる。

(3) 教材について
「無限の消費と発展を求める社会は、人々を、地球を疲弊させる。発展は幸福のためになされなければならない。」この言葉は、2012年、ブラジルのリオデジャネイロで開催されたリオ会議（地球サミット）で、南米ウルグアイのムヒカ大統領が述べたスピーチの一節である。自分たち地球市民が目指す発展の方向性を問い直す必要性を説くムヒカ大統領の使命感と貫意は偉大なものである。また、質素な時々にネクタイなしのシャツ姿でリオ会議に出席したムヒカ大統領の姿、給料の大半を貧しい人のために寄付し、町から離れた農場に夫婦で暮らし、花や野菜を育て、吉打の愛車を自分で運転して仕事に向かったりするムヒカ大統領の生き方からは、決してブレることのない信念の強さを感じるとともに、自分の欲求を捨て、世界の平和のためにすべきことは何なのかを私たちに問いかける。

本当の貧しさとは何か。本当の豊かさとは何か。人は豊かになればなるほど、欲求がなくなっていくのか。本当の幸せとは何か。平和とは…。このような生涯普遍的な問いを考え、深めることによって、地球市民の一人としての自分に気づき、多面的・多角的な視点から平和について、幸せについて、持続可能な発展のために、自分にできることについて、改めて自分自身に問い、考えを深める機会としたい。また、附属天王寺 STEAM 教育を取り入れるにあたり、本授業では、導入において、①昨年度の成果物「Tenstagram」と課題作文を用いて、平和学習の振り返りを行うこと、②「発問3」で具体的な環境問題を取り入れることによって、道徳と理科という文理融合の授業となるよう工夫した。「発問3」では、地理分野と理科分野が得意な生徒が、自身の知識を存分に発揮し、思考を深め、仲間と知識や意見を共有する中で、より精選された考えや、創造的な意見が導き出されることを期待したい。

7. ねらい
ムヒカ大統領のスピーチから、生徒一人ひとりが平和と発展について、自分自身で定義づけた上で、世界の平和と人類の発展のために、今できることと将来できることについて考える態度を育む。

指導過程	学習活動と主な発問	備考
導入（3分）	・2年生の平和学習での学びを振り返る。	※まとめ課題であった Tenstagram と課題作文を用いる。
展開（45分）	・教材の確認 【発問1】指節することもできるムヒカ大統領。なぜ貧しい国で会議に出席したのだろうか。 ・身なりなんてどうでもいいから。 ・会議出席の目的は、自分のスピーチ（想い）を伝えることだから。 ・自分は、他の大統領とは違うことをアピールしたかったから。 ・自分のプライド。	※教材は予め読んでくる。 【発問1】ムヒカ大統領は、何を大切と考えているのだろうか。 【発問2】ムヒカ大統領は、どのように他の大統領と違っているのだろうか。 ※国際的な視点に立ち、「世界は一つである」ということを前提に思考させるように導く。

【発問2】ムヒカ大統領のスピーチに詰まっているものは何だろうか。

- ・貧しい国（他国）について考える気持ち
- ・貧しい国（他国）へのやさしさや思いやり
- ・世界の平和について貧しい国の立場に立って考える心を持つことの大切さ
- ・欲求と本当の発展、平和について考える姿勢
- ・一部の人や国だけでなく、「世界」「すべての人」を幸せにしたいという想いと使命感
- ・大統領としての本当にあるべき姿
- ・世界が間違った方向に進んでいるという危機感と警告
- ・地球市民として、未来を変えたいという想い
- ・問題の本質を見極め、解決に向けて挑戦し歩むことの必要性
- ・平和は個々の努力により実現するという事実

【発問3】ムヒカ大統領は、「人類に必要なものは、『命を愛するための投資』である」と述べています。そしてムヒカ大統領は、以下の5つを例として挙げています。そのうちの1つを実現するために（与えられたテーマ）、今、世界に必要なことは何ですか。また、なぜそう考えますか。

【発問4】ムヒカ大統領は、「人類に必要なものは、『命を愛するための投資』である」と述べています。そしてムヒカ大統領は、以下の5つを例として挙げています。そのうちの1つを実現するために（与えられたテーマ）、今、世界に必要なことは何ですか。また、なぜそう考えますか。

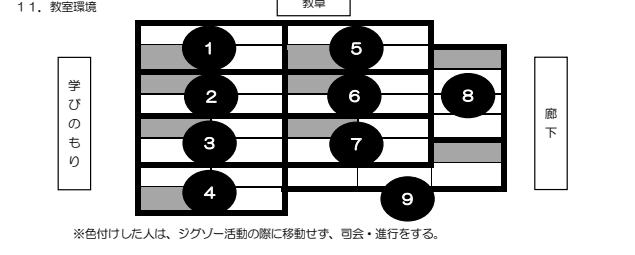
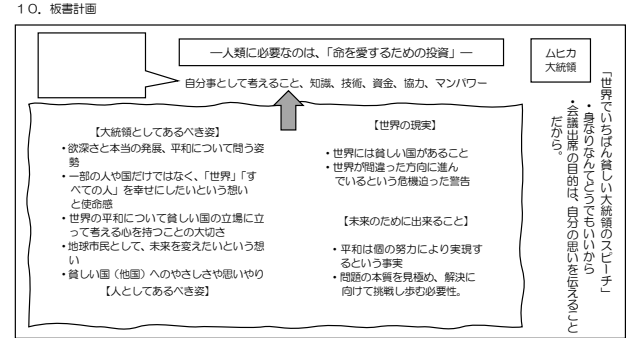
＜班活動の進め方＞
(Ⅰ) 4人班になる。（テーマの提示）
(Ⅱ) 各テーマについて、個人で考える。（1分）
自分の考えをワークシートに記入する。
(Ⅲ) 班で意見交流（5分間）
※班に1枚横道紙を配布し、横道紙にマジックで自由に考えや意見を書き込む。
(Ⅳ) 5分後、シグノー活動を開始する。
※各班で予め指定された司会・進行は残る。
※3分×4回実施。
※4回目はもとの班に戻り、再度、自分の班の意見をまとめる。
(Ⅴ) 全体交流

＜ムヒカ大統領の考え＞
人類に必要なものは、『命を愛するための投資』である。だからこそ、
(Ⅰ) サハラ砂漠の真ん中に大量の塩水が必要で、気候変動の対策として、塩水を蒸発させる。
(Ⅱ) サハラ北部の水で、アジアの乾燥地帯に飲み水を引く。
(Ⅲ) アラスカの水でロッキーのふもとに川を作り、メキシコ北部まで流す。
(Ⅳ) バタゴニアを人が住めるようにする。
(Ⅴ) アタカマ砂漠に木を植えて、世界一乾いた砂漠の気候を変える。

ムヒカ大統領のメッセージ「無限の消費と発展を求める社会は、人々を、地球を疲弊させる。発展は幸福のためになされなければならない。」を意訳させたい。

＜予想される生徒の考え＞ (Ⅰ) サハラ砂漠の真ん中に大量の塩水が必要で、気候変動の対策として、塩水を蒸発させる。 ・知識 ・技術 ・資金 ・マンパワー ・環境問題に小さなことから取り組む一人ひとりの協力（例、電気をこまめに消す、水を大切にするなど）	
最終（2分） 授業者の講話	時間が無い場合は、講話は省く。感想書きは、控室に戻って行う。（5分程度）

9. 評価の視点
①平和や発展について、多面的・多角的な側面から捉えることができたか。
②平和や幸せを自分たちで担い取る必要がある事実気づくことができたか。
③昨年度の学びと比較したとき、自らの平和についての学びを深めることができたか。



道徳「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」
()組 ()番 名前 ()

〇授業を通して、考えたことや感想を書きましよう。

平和「平和」として教育は、自分一人だけありありでなくて、改めて考えてみれば、誰もが気づいたこと、自分の平和「平和」、世界全体で平和な暮らしを、平和に生活できるようにしたい。世界全体で平和な暮らしを、平和に生活できるようにしたい。平和な暮らしを、平和に生活できるようにしたい。

道徳「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」
()組 ()番 名前 ()

〇授業を通して、考えたことや感想を書きましよう。

今日の授業を通して、命を愛するために必要なことについて考えることができた。5つの目標を達成するために必要なこと、またそれは本当に必要なか話し合うことができた。達成するためには人々が技術(水と電気が使えぬ)、そのためのお金が足りない。しかし、それは本当に必要なか話し合いた。砂漠には砂漠の生態系があると思う、観光にいっているところもある。そんな中で、命を愛するために本当にそのよう業を行って必要があるのだろうか。命は、地球そのものような概念的な意味も含められていると思う。そんな中で本当に必要なか話し合えた。また、このような基礎的な話し合いがとても重要なこと気がついていた。

道徳「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」
()組 ()番 名前 ()

〇授業を通して、考えたことや感想を書きましよう。

僕は、この授業を通して、1つの問題は是非に対して様々な解決策が意見として出た。それがそれを進めるために何をすべきか、という問いについて答えることは難しかった。これは人間が、本当に、その物事にに対して解決しようという意思が弱いのではないかと考えた。保自身、授業で聞かされたことがなかった。そういう問題はたまたま起こったので、一人一人が問題に対しての理解を深め、解決に向けた姿勢を持つことで、世界の問題は少しでも改善されるのではないかと考えた。また、複数の問題でも同じような意見が出たので、世界で起きている様々な問題の根源は一緒かという意見があった。

道徳「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」
()組 ()番 名前 ()

〇授業を通して、考えたことや感想を書きましよう。

必要なものは、心創希望、夢、希望、金、力、才能、健康、豊か、平和な暮らし、でも希望も必要なもの。必要なものは、いつ何時もかわらなければならない。人々の進む方向がかわる。だから、いつまでたっても問題はなくなりません。みんなが手を取り合えば、いつか本当の平和にたどり着くことができるのか、と思う。

道徳「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」
()組 ()番 名前 ()

〇授業を通して、考えたことや感想を書きましよう。

ムヒカ大統領のスピーチについて、行動した人の内、何人が実際に行動する。行動の規模(水と電気が使えること)。世界に呼びかけ(募金など)はどのくらいか、というところを考えた。SDGsの呼びかけは、世界でこの先どうするかという話し合いが行動しているか、と、口で言うだけで終わってしまっているか、自分の平和を考えた人、他の人へも伝えたいのか、心配りになった。しかし、このような授業を行うことで世界について考える人が増えることを思っ、瞬間に今、十分に学びたい人たちを思い出す。思っているけれど、私も募金を身動かすから挑戦したい。

道徳「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」
()組 ()番 名前 ()

〇授業を通して、考えたことや感想を書きましよう。

考えるテーマが難しく話し合ったら、スムーズにいかないこともあった。けれど、シンプルに考えたりと意見が出てきた。また、その意見が他の班にも伝わっていたので、世界で大切なことは何なのか、みんなの認識は似ているのか、と思った。(思いやり、協力、ムヒカさんの言葉は、たいてい理得で生きる「ドクト」に響いた。現実的なものでも、だからこそ人々の心に響いたと思う。世界的規模の話は、自分たちの周りでも同じように必要大切なこと気がついた気がする。

道徳「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」
()組 ()番 名前 ()

〇授業を通して、考えたことや感想を書きましよう。

「みんな地球にしたい」というゴールは簡単に考えることができた。そのゴールに到達するまでの道筋は、今回のように話しても、考えるのが難しいと感じた。そのため、必要なもの、思いました。また、どのゴールにしても行った結論は似たようなものだった。他のゴールで気付いたことは、別のことに活かせること。多いのだと気がつきました。

命を愛するために投資は投資というだけでなく、実際に成功することによって分かるものだけではない。成功したとしても失敗したとしても、それは未来の人の判断材料になるので、「愛する命」は「未来の人」も含めて考えた。思いました。

道徳「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」
()組 ()番 名前 ()

〇授業を通して、考えたことや感想を書きましよう。

世界中(日本と違って、様々な生死に関する問題は有名になっている。五臓六腑保全の大七か、世界平和の大七か、自分、今まで生死に関する単行本の外交問題は、対策問題、問題を自分も体感したことが無かったので、こころを、ふたたび対策問題は、思っている。また、平和や環境問題は、互いに手を取り合えば、解決することは可能か、と思った。

道徳「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」
()組 ()番 名前 ()

〇授業を通して、考えたことや感想を書きましよう。

世界の環境問題は、何回かテレビ番組でも見たことがある。資金、技術は、他国からの協力が、必要不可欠だ。でも、国同士の協力、平和、世界では難しい。アフリカの、民族問題による紛争、認めないことの原因は、異なる。地球に伝えているのは、他言語でも、同じ色で、地球に伝えている。他言語でも、同じ色で、地球に伝えている。他言語でも、同じ色で、地球に伝えている。他言語でも、同じ色で、地球に伝えている。

道徳「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」
()組()番 名前()

〇授業を通して、考えたことや感想を書きましよう。

「貧しい国で一番貧しい大統領のスピーチ」を聞いて、私はとても感動しました。その中で、彼は「我々の国には、食料や水、医療、教育と必要不可欠なものが足りません。私たちは、これらの不足を補うために、他の国々から助けを求めたいと思います。」と訴えました。彼のスピーチは、貧しい国々を代表する人々の苦しみと希望を伝える貴重な機会となりました。私たちは、世界の貧困問題に対して、一人ひとりができることを考え、協力し合う必要があります。

道徳「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」
()組()番 名前()

〇授業を通して、考えたことや感想を書きましよう。

ムバ大統領は「必要以上に生産し、過剰に購入、使い捨ての今の資本主義のやり方はおかしい」と言いました。これには私も深く共感しました。現代社会は、生産と消費のサイクルが非常に速く回り、大量の資源が消費され、環境に大きな負担をかけています。また、所得格差が拡大し、多くの人が貧困に陥っています。持続可能な社会を実現するために、私たちは生産と消費のバランスを見直し、資源を大切に使い、環境に優しい生活を営む必要があります。

道徳「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」
()組()番 名前()

〇授業を通して、考えたことや感想を書きましよう。

私の印象は「バゴニアは人気が高い国に育つ」というフレーズが印象的でした。私はバゴニアをまだ見たことがないので、この国がどのような国なのか、どのような文化や習慣があるのか、とても興味があります。また、このスピーチで、大統領は「我々の国は、他の国々から援助を受けたい」とも述べていました。これは、貧しい国々にとって、外部からの支援が非常に重要な役割を果たしていることを示しています。

道徳「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」
()組()番 名前()

〇授業を通して、考えたことや感想を書きましよう。

今日の授業を通して、幸せとは何かとについて考えさせられました。お金や物を持っているだけで幸せを感じるのではなく、大切な人と一緒に過ごすことや、家族や仲間を大切にすることが、本当の幸せにつながると思います。また、自分だけでなく、他の人々の幸せも考えることが、社会全体の幸福につながることを学びました。

道徳「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」
()組()番 名前()

〇授業を通して、考えたことや感想を書きましよう。

世界では自分たちの知らないところで様々な問題があることを知りました。初めて聞く地名や問題が、自分たちの生活にも関係しているかもしれないと気づきました。例えば、環境問題は、地球全体に影響を与えているので、私たち一人ひとりが意識して取り組む必要があります。

道徳「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」
()組()番 名前()

〇授業を通して、考えたことや感想を書きましよう。

ムバ大統領の理想の世界には、親が子に注ぎ込む無条件の愛情や、遠く家族に響く悲しみや他人にも同情することや、世界に平和があること、平等が実現していることなどが描かれています。しかし、歴史を振り返ると、日本では明治時代から戦前にかけて、貧富の差が生じていました。つまり、平等の世界が実現するのは、100年以上前から理想と憧れてきたことだと思います。今日の授業を通じて、ムバ大統領の理想の世界について、自分たちがどう貢献できるかを考えることが、とても大切だと感じました。

道徳「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」
()組()番 名前()

〇授業を通して、考えたことや感想を書きましよう。

どれもテーマは異なるけれど、環境問題、気候変動、持続可能な開発目標(SDGs)など、共通の課題があることに気づきました。例えば、「人々が豊かになる」という目標は、SDGsの目標3「健康と長寿な生活を実現する」や目標10「人や国の不平等をなくす」に関連しています。私たちは、環境を大切に保ちながら、持続可能な社会を実現するために、協力し合っていく必要があります。

道徳「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」
()組()番 名前()

〇授業を通して、考えたことや感想を書きましよう。

ムバ大統領の5つの提案の実現について考えたときに、やはり国際間で協定することが重要だと感じました。例えば、気候変動対策は、国境を越えて取り組まないと実現できません。また、経済的成長と環境保護の両方を達成するためには、互いにWIN-WINの関係を作る必要があります。

道徳「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」
()組()番 名前()

〇授業を通して、考えたことや感想を書きましよう。

私はニュースが好きなので、よく世界について考えています。このスピーチを通じて、世界の現状について学ぶことができました。特に、貧しい国々における生活の厳しさや、教育や医療の不足が印象的でした。また、大統領が「我々の国は、他の国々から援助を受けたい」とも述べていました。これは、貧しい国々にとって、外部からの支援が非常に重要な役割を果たしていることを示しています。

道徳「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」
()組()番 名前()

〇授業を通して、考えたことや感想を書きましよう。

僕は、ムスリ大統領が言った「世界の5つの課題を知りませんでした。僕がどうするかと言えは、世界のことについて詳しくは知りませんが、世界中の人が今起きていることを知ることが必要だ」と思いました。また、僕が仮に大統領になった時、知っていても努力を怠らぬと思います。

道徳「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」
()組()番 名前()

〇授業を通して、考えたことや感想を書きましよう。

何事も、世界的な協力が大切だと思った。お金も、技術も、世界的な協力がなければ成り立たない。今日、私は147カ国の国の名前を知らなかった。それが困らしていることを初めて知った。今日私がこのことを知ったことは、私の中で環境について考えることに大きな意味を思っている。日本の中でも、今日の私のように世界の今の状況を把握している人が、世界の幸福につながる第一歩になるのではないかと、今日の授業から学ぶことができました。

道徳「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」
()組()番 名前()

〇授業を通して、考えたことや感想を書きましよう。

この授業のグループワークのときに物事を進める前提で話していたので、物事の必要性は最初から考えるべきだと思った。地球温暖化が問題として出てきたが、二酸化炭素排出量を減らすのは難しいので、今ある自然などを大切にすることが大切だと思った。(「自然、生態系」というイメージが多いのでそこを直していきたい。

道徳「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」
()組()番 名前()

〇授業を通して、考えたことや感想を書きましよう。

ムスリ大統領のスピーチを聞いた。今日の授業でこのことを解決するために必要なことを考えたりしたことで、1の年と2の年と、多くの人の命が大切だと思ったり、世界を助けてあげたり、自分たちがこの世の責任を負うことが、自分自身もまた幸せになることだと思ったりすることが大切だと思ったりした。これからの世界で資源を使わずに、豊かに暮らすことができるように、自分自身から率先して行動することが大切だと思ったりした。これからの世界で資源を使わずに、豊かに暮らすことができるように、自分自身から率先して行動することが大切だと思ったりした。

道徳「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」
()組()番 名前()

〇授業を通して、考えたことや感想を書きましよう。

世界の環境をよくするためには、大前提として人々の意識が必要だと思った。また、「お金や努力、重要だが、募金をするにもその対象を考えなければならない。努力についても労働環境を整えないといけない」と思った。ムスリ大統領は「命を愛するべき」と言っていたので、「砂漠の環境を変えることにより生態系に影響を与えないか」ということも考えなければならない、と考えた。

道徳「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」
()組()番 名前()

〇授業を通して、考えたことや感想を書きましよう。

今の世界には様々な問題があるけれど、解決のために必要なのは「技術」や「思いやり」など共通していることに気づいた。また、問題の解決方法が明確でも、行動しなければ始まらないので、率先して行動する人(リーダー)と、その人(リーダー)に協力する人が必要だと考えた。リーダーシップとフォローシップは世界的な問題と解決するためにだけでなく、普段の学校生活、行事などでも必要だと思ったり、身近なことでも他の人と力を合わせることでできる人でありたいと思ったり。

道徳「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」
()組()番 名前()

〇授業を通して、考えたことや感想を書きましよう。

世界の環境が二利玉悪いというところを知り、また自分自身も環境改善に関わりたいと思った。

道徳「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」
()組()番 名前()

〇授業を通して、考えたことや感想を書きましよう。

砂漠が広がる地帯に人が住めなくなるといって、人々が住めるようにすることは考えていたが、砂漠の人は住める前から、あきらめず、そこに生物は住んでいるから、その環境や生物たちを尊重し、技術などを使って無理やり住もうとするのではなく、そのままにしておくことも大切なのではないかと考えた。ただし、人が自分の利益の目的で資源を消費したりすることは良くないだろう。

道徳「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」
()組()番 名前()

〇授業を通して、考えたことや感想を書きましよう。

あまり環境にやさしい問題、成長が速いから、人々の生活の質を向上させるために世界全体の発展に貢献している。たのしみで頭をつけた。地球と人間は人間が住まわなければならない。人のためにどうするかは、環境のことでも考えてほしい。しかし同じような問題について、クラスメイトと考えることで他の考え、様々な視点でものを考えることができた。友達や先生、問題の解決、対策は単純ではないと思ったり世界の人々は、どのような物を単純に考えることよりも、人々の生活の質を向上させるために、単純な考えよりも、困難な下り、他の教科からの視点もあり、様々な考えを生かして、とても良い影響。

道徳「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」
()組()番 名前()

〇授業を通して、考えたことや感想を書きましよう。

結論 この世界に必要なのは先を行く
良い意味の独裁者だと悟った。たゞ民
主主義の風潮が強いのはむずかしい。
真なる平和はまだ遠いと思つた。

道徳「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」
()組()番 名前()

〇授業を通して、考えたことや感想を書きましよう。

教員には、今の世界の協調と信頼が足りか
らぬことだ。

このことかと言ふと、今世界ではロシアが
戦争で、どの国でも紛争や内戦が起つて
います。

これを解決しなければ問題は取りつめな
いし、仕事のない人と仕事を失つた人も
紛争や戦争があれば仕事も困難になり
人も来なくなります。

そのため、世界では解決しなければならぬ問題か
も積み重ねていく。

また、これを解決するには、各国をメトリッ
クが無ければ動く国は少ないので、
これに実利目的ではなく、人のため、こ
ういふ心で動くことが大事かと思ひ
ます。

道徳「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」
()組()番 名前()

〇授業を通して、考えたことや感想を書きましよう。

今日の授業を通して、人間に必要なものは
何かかと思ふことができた。大統領の
話から人間が持つべきことを考えられた。また、
グループ活動では世界の問題を解決するには
国際協力が必要でそのためには理解することが
大切かと感じた。そこから、人間が世界的に協力
するには合意が必要になり、難しいのではないか
と感じた。また、平和についてまた考え直す
ことができたと思う。それぞれの国は自分の国
のメリットや利益を考え、それによって国際的に合意
することが難しくなり、平和を実現しづらくなつて
いるのではないかと感じた。

道徳「世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ」
()組()番 名前()

〇授業を通して、考えたことや感想を書きましよう。

前日のスピーチと今日のスピーチの両方、
問題の解決には技術面と意識面の両方あることか
分かつた。前日、今日のスピーチの話しで、技術面の実現
には意識面と実現さる必要があると思ふことか
分かつた。また、今日のスピーチの話しで、この両方共通
点があるか分かつた。スピーチの言葉の中に「貧乏は
みんな持っていることでは無く、貧乏になることを
もたせたいかである」というものか印象に残つた。
経済的に困窮した状態でも、それを及ぼす事か幸せであること
を認識するようか感じることも分かつた。人間と、何か
大切な幸せは何かかあるかあるか分かつたと思つた。
現状に満足して努力しない事か、現状に満足し、
平和幸せを認識する事のどちらか大切なことか分かつた。

【参考資料 研究協議について】

A先生

ジグゾーで話している様子を聞いていると、女子は心理的面を語り、男子は現実的（お金、見返り）なことを語っていることが印象的だった。

授業者

ジグゾーで多面的・多角的に考えることや人の意見から、新たな気づきを生徒がもつことができれば良いと考え、ジグゾー活動を取り入れた。また事前に生徒に考え議論するテーマを示すことで、生徒それぞれが興味を持ったテーマのところに移動するのではないかと考え、活動前に伝える情報を工夫した。

B先生

ステップを見ながら生徒を導いていく授業だった。生徒は「地球市民としてどう考えたらいいか」「私たち日本のことにどう落としこんだらよいか」と自分事にできていたと思う。また、清谷先生のお話から教育と移民のことを、どう考えていけばいいのかという学びがあった。

授業者

道徳の専門の先生や大学教員ではなく、清谷先生にきってもらったのは、世界や日本のリアルな現実を知る実務家が学校の平和教育に何を求めているのか、また世界や日本の現状についても、知りたいと思ったからである。

C先生

生徒たちが「どんな問いを見つけたのか」ととても興味を持った。他の教科にも活かされる授業だったと感じた。自分自身も道徳の授業をみてもらった時には、総合とどう違うのかとよく質問される。田中先生はどうお考えですか。また、ジグゾーでの3分×4ローテは少し速いと思う。天王寺の生徒だからできたのか？

授業者

道徳では、内容項目の道徳的価値について「授業者がどう捉えるか、つまり、どのような人で、どういった考えを持って生きているのか」という、人としての勝負だと思っている。総合はもう少し自由度が高い。ローテーションの活動時間については、事前に一度他クラスで授業を行った後に、所属クラス

の生徒に聞いたところ、生徒たちが「時間は問題なく、大丈夫だ」と答えてくれたので、今回もそのまま3分×4ローテで実施した。そういった意味では、附属天王寺の実態に合った時間配分であったと思う。

D先生

勤務校では、道徳教育と授業改善に取り組んでいる。田中先生の授業には気づきがあり、ICTも使われていて学びがあった。教科書を離れ、教材を作られていること、先生と生徒が話す時間の割合が50%ずつであったこと、生徒が自分の言葉で話すのは今までの授業の中で、対話的な学びがあったからだと思う。生徒の学びが、物の豊かさから心の豊かさに移っていった。それが人間としての生き方につながっていくのではないかと。レジリエンスについても話が広がっていった。GIGAスクール構想により、生徒一人ひとりにクロムブックが割り当てられているが、生徒自らが必要な時に、各自、使っていたのが良かった。

その一方で、もう一工夫あれば良かった点は、ジグゾー活動の最後の生徒の発表の場面で、マッピングを写真に撮り、スクリーンに映せばよく見えたのではないかとこのところだ。

E先生

岩手の道徳では教科書をベースにしている。先人に学ぶ、震災関係の道徳が多い。田中先生の授業では、先生が深めるための問い返しの工夫があり、良かった。生徒たちの感想を聞きたい。答えが出ない問いに対しての議論を生徒が楽しんでいた。

授業者

ジグゾー活動の際の机間巡視で、生徒たちに対して、問い返しをしていいのか、迷った。生徒の思考を止めてしまうのではないかと考えたからだ。生徒の思考を深めるために、はじめの1、2ローテのみ、机間巡視の際に問い返しを行った。STEAM教育と絡めたのは、今回は環境についてであったが、生徒たちが環境問題について理科で習うのは、中学3年生の12月頃であるので、教科学習とどう関連付けられるかが楽しみだ。

司会者

考え議論のできる道徳が実践出来ていた。まさに道徳と理科という文理融合のSTEAM教育の実践であった。理系の設問が多いが、人と人のつながりや

愛など、まさに融合できており、考える必然性がそこに存在していた。本時の道徳は、「ねらい」「教材」「指導法」と、3拍子揃っている。昨年度の総合で行った平和学習をさらに深めようと、自主教材で「平和」をテーマに道徳を実践されたことは素晴らしく、本実践は「総合」「道徳」「STEAM」とを絡み合わせた新たな道徳教育の実践の提案と言える。

また、授業の展開「発問1」で、「ムヒカ大統領は、なぜ平服でスピーチしたのか」という問いに対して、ある生徒は、「自分が目立つ」と答えた際に、田中先生は「なぜ？」と追質問することで、「自分の生活で不自由なし」と、生徒が自分が考えてなかったことを掘り起こすことをされた。その時点でこの授業は成功につながっていくだろうと確信した。

指導助言者

道徳の中に地理、政治など含まれていて、驚いた。自分自身が体験してきた授業者主体の授業とは、全く違う形の授業であった。また、導入に昨年度の課題であったTenstagram（自分の思い）からの導入も良かった。さらに、ジグゾー活動では、議論を円滑に行わせるために、グループの中に一人残るファシリテーターを置いていたのが良かった。

授業者

終末では、あえて授業者でまとめないようにした。生徒がジグゾー活動を通して、「どんな発見があったのか」「どんな問いを見つけたのか」「どんなことを考えながら活動をしていたのか」を聞き、それを共有することで、多面的・多角的な視点から「平和」について考えを深められることを目指した。そしてその中で、それぞれ考えるテーマは違えど、実はつながっていることに生徒たちが自分たちで気づけたことが良かった。生徒の頑張りに感謝したい。

【9/20（水）実施の中間発表に使用したスライド】

平和について、生徒がともに 考え、議論する道徳授業

2023年9月20日（水）教育研究会 中間発表
授業者 田中 真理子

成果と課題

- ①知識と体験の相互作用から、主体的・対話的な深い学びへと導くことができた。
- ②「平和とは何か」という問いに対して、自分なりの答えを持つことができた。

➡ 平和は「自ら掴むもの」とであるという視点

小学校での平和学習の取組み（75期生）

小学校での平和学習を覚えているか

覚えている	覚えていない
62%	38%

- ①約4割の生徒が平和学習を覚えていない。
- ②平和学習は、広島・長崎・沖縄の三島の戦争についての悲劇を教材化した学びの傾向が強いという実態が分かった。

実施	内容	実施数
行事	修学旅行で広島へ行った。	10
	広島・長崎での原爆投下、沖縄の戦い	9
	戦争についての子供（映画）や動画を見た(WW2など)	6
	戦争について、戦争の悲惨さについて学んだ。	5
行事	防災学習（一歩防災活動）を行った。	4
	本館について調べた。（修学旅行で行く予定のため）	3
	戦争を体験した方のお話を聞いた。	2
	平和が大変だと考えさせるような動画	1
	戦争の歴史、平和の重要性について学んだ。	1
行事	修学旅行で東京の靖国神社へ参拝学習を行った。	1
	戦争体験者のお話を体験した。レポートを作成した。	1
	戦争の歴史を聞くことと、戦争の歴史を聞くこと。	1
	戦争に関する本の紹介を見た。	1
	広島と長崎の原爆投下について学んだ。	1
授業	道徳で学んだ。	2
	「六千人の命のどろり」を見た。	1
道徳	「もしもいのちのかけがえなし」で学んだ。	1
	歴史を学ぶための動画を見た。	1
	戦争を学ぶための動画を見た。	1
新着	総合学習の一環で戦争と日本を比較し、平和について学びました。	1
	自衛隊の歴史を学ぶことについて	1

平和についての学びを 深める道徳授業

2012年、ブラジル・リオデジャネイロで開催されたリオ会議（地球サミット）で、南米ウルグアイのムヒカ大統領が述べたスピーチ

➡

- ①平和や幸せを掴むために必要な資本・資源 <事実（現在）>
- ②平和な未来を切り拓くために、必要なものやぶつかる壁、壁を乗り越えるために欠かせないもの（こと） <未来>

「生命力」「人間愛」「思いやり」「家族愛」
を軸にした平和学習
(令和4年9月22日～9月24日 実施)

1 シベリア抑留についての学び
一原田二郎さんの話

2 平和 幸せな気持ちで苦しい気持ちに勝っているとき

3 自分の振り返り

4 自分にとっての平和とは…
「幸せであること」一意味で分かりにくい

5 平和 幸せな気持ちで苦しい気持ちに勝っているとき

6 「平和」の
納得感の発見

学びを人生や社会に
活かそうとする
学びの大切さ
人間性への成長

生きて働く
知識・技能の
習得

未知の状況にも
対応できる
思考力・判断力
実践力の育成

夕礼でのAさんのスピーチ

2 平和 幸せな気持ちで苦しい気持ちに勝っているとき

5 平和 幸せな気持ちで苦しい気持ちに勝っているとき

6 「平和」の
納得感の発見

たまたま読んでいた本の一節
に答えが見つかった。

夕礼での学びの共有

～各学級の代表1名による平和についてのスピーチ～

授業内での工夫

- 1 写真は見て、いつでも美しいと思えるような
世界になってほしいと思う
I would like to see a world where people can
look at flowers and think they will always be
beautiful.
- 2 赤いチューリップは「辛い思い」の。この花のように、辛い
感情を抱くことを忘れないで。世界が平和であるために、まず
自分自身を幸せにせよ。
"The red tulip symbolizes 'sad moments'."
Like this flower, we won't forget the grief of our work.
Let's make the world happy, start with your own happiness.
- 3 自分、この画像で「平和の象徴」だと思つた。
暗黒して、絆を深めるカップル。
これは国家間でも同じことだ。
I think this picture is a symbol of peace,
because couples who fight have deeper relationships

成果と課題

変化の理由：2項目8要素の分類

知識	思考
シベリア抑留・ユダヤ難民・ポーランド孤児についての学び	新たな平和観の発見
人権の確立	安心で安全な生活
人道・博愛の精神の大切さの気づき	生き方のヒント
学年の仲間や先生の講話	他人事から我が事へ

①辛い中でも楽しみを見つけ、前向きに
考えることの大切さ

②小さな平和や幸福を見つける大切さ

①自分に出来ることを考えることの大切さ

②平和は自分たちで作るものであること。

平和に対する考え方が深まったか？

NO	YES
26	87

約8割の生徒が、平和に対する考え
方が深まったと回答した。

3年生での学び（本授業）

2年生での学び

平和について探究することで、生徒が自己
内対話を繰り返し、主体的・対話的で深い
学びに導くことができる授業を目指す。

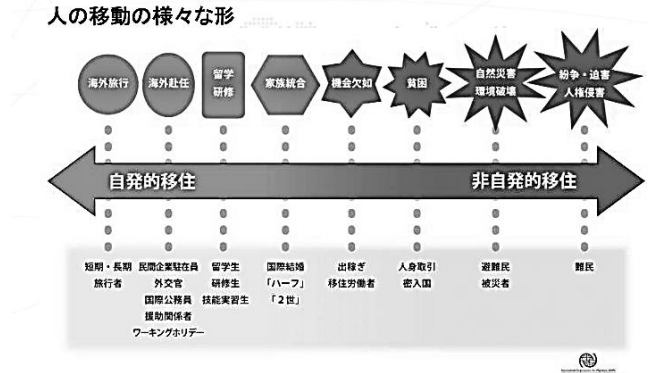
【11/11(土) 実施の教育研究会指導助言の際に使用したスライド】

第70回教育研究会

移住者と学校教育・共生支援

国際移住機関駐日事務所
プログラム・マネージャー 清谷 典子

2023年11月11日



はじめに:IOM(国際移住機関)の概要

基本理念:
正規のルートを通して、人としての権利と尊厳を保障する形で行われる人の移動は、移民と社会の双方に利益をもたらす。

世界的な人の移動(移住)の課題を専門に扱う国連機関

1951年設立
本部:ジュネーブ(スイス)
100か国以上
400拠点以上

IOMの加盟国は現在174カ国

加盟国、民間セクター、市民社会、国際社会など、様々な連携を通じて活動を実施

持続可能な開発目標と人の移動

4: 質の高い教育をみんなに (4.b: 奨学金の増加(学生の移動))

5: ジェンダー平等を實現しよう (5.2: 人身取引の撲滅(特に女性や少女))

8: 働きがいも経済成長も (8.7: 人身取引の撲滅, 8.8: 移住労働者の権利の保障(特に女性))

10: 人や国の不平等をなくそう (10.7: よく管理された移住政策, 10.c: 送金コストの低下)

16: 平和と公正をすべての人に (16.2: 人身取引の撲滅)

17: パートナリシップで目標を達成しよう (17.16: グローバルなパートナーシップを促進しよう, 17.17: 国連システム全体の協力を強化しよう, 17.18: 国連システム全体の向上(任意参加))

地球上の誰一人として取り残さない (Leave No One Behind)

宣言
(23 para) 移民を含む脆弱な人々はエンパワメントがなされなければならない。
(29 para) 包括的成長と持続可能な開発に対する移民の積極的な貢献を認識している。

本日の構成

1. 世界の人の移動
2. 移住映画で学ぼう多文化共生
3. 日本の定住外国人子どもの就学支援
4. 考察

映画を通して移民家族と受け入れコミュニティの在り方を問う

映画の内容(15分間)

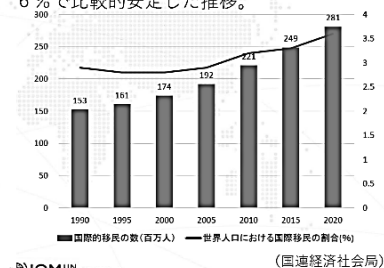
スイスのとある町で、母親と暮らすアラブ系の移民である主人公の少年は、思春期にさしかかり母親と衝突するだけでなく、自らの出自や母親の服装を理由に、サッカーチームではチームメイトにからかわれ、いじめを受けます。チームメイトに合わせて、自らの文化を茶化すところを母親にも見られてしまいます。

いじめの中で主人公は、チームメイトたちに犯罪にもなり得ることを強要されます。これに彼はどのように反応するのでしょうか。宗教や文化が異なる土地に暮らす親子の苦悩と希望を描いた作品です。

→実際に映画を観て、学びにつながるポイントを確認しましょう。

世界の総人口に対する国際移民の推移

- 国際的移民の数は増加傾向にあり、2020年には、2億8,060万人。世界人口に占める割合は3.6%で比較的安定した推移。
- 国際移民は世界人口全体の3.6%にあたる。(30人に1人が国際移民)
- 国際移民の男女比:
男性:52%、女性:48%
- 国際移民全体の70%以上が15~64歳の労働年齢である。



ディスカッション

アイスブレイク:
あなたは「引っ越し」をしたことがありますか?
「引っ越し」をしたことがある人を知っていますか?

- ・なぜ「引っ越し」をすることになったのでしょうか?
- ・暮らし慣れた場所や、生まれ育ったところから引っ越すとき、どんな気持ちでしたか?どんな気持ちだと思いますか?
- ・引っ越し後、どんなことが大変でしたか?大変だと思いますか?

ディスカッション

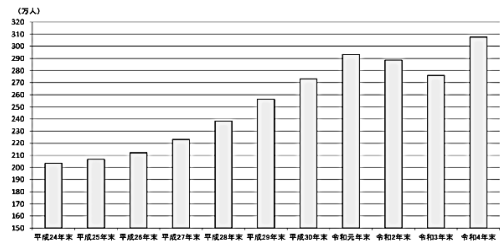
人々が「他の国や地域に移住したい」と考える理由はさまざまです。どんな例があるでしょう？



写真の例以外にも、本人や家族の仕事、紛争から逃れるため、気候変動による居住地の変化など、移住の理由はさまざまです。



日本の定住外国人の推移



(出入国在留管理庁：令和4年度末の在留外国人数について)

映画を観た後に

ディスカッション

- ・どのシーンが一番印象的でしたか？
- ・ダスタンのクラスメートは、なぜダスタンのお母さんのことをからかっていたのだと思いますか？
- ・もしあなたがダスタンだったら、お酒を買いに行くように言われた時に、どうしますか？



1-1. 中高生想定

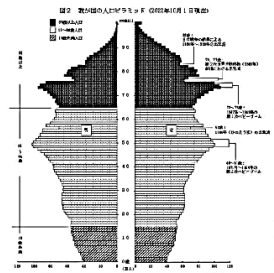
日本の人口

現在の人口統計 (総務省統計局)

日本の人口推計: 1.24億人 (2022年)
労働人口 (15-64歳): 7420万人 (2022年)
合計特殊出生率: 1.34 (2020年)
出生数: 77万人 (2022年)
在留外国人数: 296万人 (人口比 2.4% - 2022年)

2070年将来人口予測 (厚生労働省の国立社会保障・人口問題研究所)

人口推計: 8700万人 (20年比 36% 減)
労働人口: 4535万人 (20年比 3000万人 減)
合計特殊出生率: 1.35
出生数: 45万人 (22年比 32万人 減)
在留外国人数: 939万人 (人口比 約 10%)



映画を観た後に

ディスカッション

- ・もし、ダスタンが日本にやってきて、明日からクラスで一緒に勉強することになったら、楽しく学校生活を送るために一人ひとりに何ができるでしょうか？
- ・ダスタンや彼のお母さんのような移民の人々が移住先で自分らしく生活するには、どんなことが必要だと思いますか？



1-2. 中高生想定

多文化共生社会への取り組み

✓ 2022年に、政府は目指すべき外国人との共生社会のビジョン、それを実現するために取り組むべき中長期的な課題及び具体的な政策を5年間のロードマップで示した。

✓ 「安全・安心な社会」、「多様性に富んだ活力ある社会」、「個人の尊厳と人権を尊重した社会」の3つのビジョンに沿っている。

✓ 重点課題が4つ設定されており、定住外国人の学校教育に関しては、特に課題1や3の部分との関連が深い。

✓ その他、4の共生社会の基盤整備なども関係があり、定住外国人を受入れる側である学校における異文化理解、多文化共生に基づく教育の更なる普及、充実も施策に含まれている。(施策71)

<https://www.mmi.go.jp/isa/content/001367242.pdf>

1 円滑なコミュニケーションと社会参加のための日本語教育等の取組

- 都道府県等が行う日本語教育強化のための総合的体制づくりを重点に推進するとともに、市区町村が都道府県等と連携して行う日本語教育を高める取組【文科省】 ①②
- 「日本語教育の参照枠」に示された教育内容やレベル尺度等に対応した分野別教育プログラムの開発【文科省】 ③④
- 生活オリエンテーション (日本で生活するための基本的な情報提供、初歩的な日本語学習) 動画の作成・活用等により社会制度等の知識を習得できる環境【文科省】 ⑤
- 生活環境に応じた日本語を学習できる ICT 教材の開発・提供等【文科省】 ⑥
- 来日前に円滑なコミュニケーション力を身につけるための海外における日本語教育機関の認定制度及び日本語教師の資格制度整備【文科省】 ⑦⑧

3 ライフステージ・ライフサイクルに応じた支援

- 子育て中の親子向けの交流や子育て中の不安・悩みを相談できる場の提供等を行う地域子育て支援拠点事業の実施【こども家庭庁】 ③④
- 住民基本台帳システムと学級簿システムとの連携により、外国人の子どもの教育状況の一体的管理・把握を推進【文科省】 ③⑥
- 公立高等学校入学試験において外国人生活を対象とした特別定員枠の設定及び受験に際しての配慮の取組を推進【文科省】 ④⑦
- 高等学校において、日本語の個別指導を教育課程に位置付けて実施する制度を導入【文科省】 ⑤⑧
- ハローワークの外国人雇用リープスコーンにおける専門相談員や職種の配用による適切な職業相談の実施、外国人の雇用管理に関する取組【厚生労働省】 ⑤⑦
- 雇学生の国内企業等への就職促進に係る施設訪問の効果的な連携および必要不可欠の実施、更なる国内就職率の向上を達成するための取組の実施【文科省】 ⑤⑧
- 定住外国人を対象とした、日本語能力に配慮した職業訓練の実施【厚生労働省】 ⑥⑧
- 年金制度に関する周知・広報の継続・充実【厚生労働省】 ⑥⑧
- 「在留外国人に対する基礎調査」等による実態把握等【法務省】 ⑥⑧⑨

※ 施策番号が赤字のものは、令和5年度一部変更を行う取組施策

映画を観た後に

ディスカッション

- ・どのシーンが一番印象的でしたか？
- ・映画ではダスタンのさまざまな葛藤が描かれていました。彼の葛藤はどこから生まれていたと思いますか？
- ・同じ地域で一緒に暮らしていくために、移民を受け入れる人々ができること、移民ができることは何でしょうか？



2-1.

就学支援の取り組みについて IOMの経験から

初期対応

不就学等の子どもがいるという情報を得ることが必要。

不就学調査の頻度に加え、住民登録をもとにした調査の場合、在留資格のない子どもは住民登録はできていない、保護者が転居に応じた住民登録の移動をしないなどの限界がある。

一信頼関係をベースとした情報提供、及び学校が魅力的な場に見えることが必要。

行政の入国・転入の際の手続き窓口、教育委員会や学校、派遣会社、支援団体、教会等宗教組織、地域の外国人コミュニティなどがかわることが必要となる。



映画を観た後に

ディスカッション

- ・多様な人が暮らす社会で、お互いの違いを受け入れ、その人らしさを尊重しながら暮らすことは簡単でしょうか、それとも難しいでしょうか？
- ・それを実現するために、どのような工夫ができるでしょうか？



- ・映画はヨーロッパやアラブ文化をテーマにしていますが、日本やあなたの身の回りの状況と共通することはあると思いますか？



2-2.

就学支援の取り組みについて IOMの経験から

アセスメント

適切な支援内容を提供するためには聞き取り面談によるアセスメントは不可欠。

→ 子どもからの情報、子どもの日本語能力をはじめとする学力状況、保護者からの情報、前籍校等からの情報を合わせて見立てる。

日本語能力の測定としては、DLA(外国人児童のためのJSL対話型アセスメント)を用いる団体が少なくない。母語の状況や、家庭内言語の状況も聞き取る場合がある。

不就学、不登校状態の解消を目指す場合は、聞き取りの範囲がこれまで学校で起きたトラブルやその対応などに広がる。



就学支援の取り組みについて IOMの経験から

具体的な問題解決

学校でのトラブル

内容を確認する。学校と保護者の対話の場に正確な通訳がいたか、地域にバイリンガルコーディネーターや指導員はいないか。教育委員会との調整が必要か。

発達の問題が疑われる場合

異文化環境に急に入ったことによる混乱や日本語理解能力のため指示に従えず、集中できない様子が「多動」ではないかとの誤解を生みやすい。特別支援学級のほうが少数で学べるので、日本語がわかるようになるまで特別支援学級に入っただろうかと言われ、もめた事例もあった。

経済状況と日本での生活の見通し

短期契約で工場等に派遣されている場合、保護者がいつまでこの地域にいるかなど見通しをもって生活することが難しい場合がある。「非審判的態度」が重要。就学援助等の申請支援、学用品手配の支援。

家庭内の問題

DV、虐待の疑い、家庭内の不和等、家庭環境が難しい状況のある子どもの支援は、ケースワークが必要で、福祉部局等、様々な関係機関と連携する。

© IOM MIGRATION

就学支援の取り組みについて IOMの経験から

保護者との関わり

言葉の壁や、外出機会のない生活により、保護者も地域社会との接点が薄い場合がある。

一子どもを公立学校に就学させるといじめられると思いついていたり、漠然とした不安感を抱いていたり、就学させるための方法をよく理解していない場合もある。

適切な情報と支援があれば、保護者も考え、決定することができる。保護者の集い、保護者間の情報交換や助け合いの促進も有効。

地域に支援団体等につなげ、保護者のニーズに沿った日本語を学ぶ場の情報提供や、保護者の母語による働きかけ、同行支援等につなげることも有効。

© IOM MIGRATION

就学支援の取り組みについて IOMの経験から

地域との連携

連携体制や連携の流れを構築すると効果的。

地域の行政、学校関係者、支援団体が定期的に連絡会議を開催。

支援団体と教育委員会の定期訪問、情報交換。

支援団体の中には積極的に活動を公開する団体もあるため、市教委や学校の先生方が見学することも可能な場合がある。

教育委員会や学校での研修の講師として、支援団体から具体的な話を聞くことも地域で外国人の子どもを見守る体制作りに有効。

© IOM MIGRATION

移住者の境遇—コロナ禍での特徴

- 言葉や限られたネットワークなどのため、公的で正確な感染予防や支援の情報を得ることが難しい場合がある。
- 短期雇用や、不安定な雇用についている人も多く、正規、非正規にかかわらず、診療を受ける機会が限られている。
- 難民キャンプ、国内避難民キャンプ、収容施設など、他者との距離を保つことが難しい環境に居ざるを得ない難民・移民が数多い。

No one will be safe until everyone is safe.
全ての人が安全でない限り、誰一人安全でない。

© IOM MIGRATION

IOMの取り組み—コロナ禍で分かったこと

・実施している事業の継続

難民の第三国定住、自主的帰国・社会復帰支援、人身取引対策、緊急救援事業など、移動の制限のある中でも、活動を停止しない。

・啓発活動の強化

包括的な対策の必要性、移民への社会への貢献(Essential Workを担う)、外国人排斥への懸念に関連するメッセージを積極的に広げる。

・脆弱な移民に対する支援の実施

避難民キャンプやそれに類する環境では感染症にかかる危険が常に高くなることから、水のアクセスの確保や適切な消毒など公衆衛生のリスクを低減させる活動を実施。

© IOM MIGRATION